

図書館だより

No.9
2005.6

学園創立80周年・
短大創立40周年記念号

学園創立80周年・短期大学創立40周年記念 第1回 図書館企画展

「子どもの世界と義経」

(場所：図書館1階展示コーナー)

開催日程

第1回	近世文化と教科書の中の義経	5月16日(月)～5月25日(水)
第2回	明治期の子ども読み物と義経	5月26日(木)～6月4日(土)
第3回	現代の子ども読み物と義経	6月6日(月)～6月15日(水)



歴史上の人物で、私たちのヒーローとして人気のある人物は数多く存在してきました。坂本竜馬や楠正成、西郷隆盛、武田信玄、織田信長…人それぞれ自分自身にとってのヒーローが思い浮かぶのではないのでしょうか。

そうした歴史上のヒーローの一人に源義経がいます。義経はおよそ800年間にわたって歴史上最も人気のあるヒーローの一人であり続けてきました。五条の大橋での弁慶との対決やひよどり越えの逆落とし…。義経という名前を聞いただけでこれらの出来事やその光景が思い浮かぶ人も多いのではないのでしょうか。

しかも、義経にまつわるそうした逸話は、現実的な出来事というよりは、どこか幻想的でロマンあふれる空想上の出来事のように感じられます。義経という人物そのものが、実在の人物でありながら、どこかファンタジーの世界の登場人物のような響きを感じさせるのです。

義経の生涯が放つそうした魅力は、古くから人々の空

想をかき立ててきました。その結果、義経の生涯は史実を離れて一人歩きし、さまざまな伝説へと発展していきました。そして義経の生涯にまつわる逸話やそこから派生した伝説は、謡曲や浄瑠璃、幸若舞曲、御伽草子、浮世草子などの題材にされ、人々に愛されてきました。

義経にまつわる伝説が発展したのは、大人の世界に限ったことではありません。子どもの世界でも、義経伝説は豊かに発展してきました。絵本や伝記などの読み物で取り上げられたのはいうまでもありませんが、現代の私たちからは奇異に感じられるほど教科書でも大きく取り扱われていました。

今回の企画展では、ヒーロー義経が子どもの世界ではどのような存在として描かれてきたのか、子どもにとって義経とはどんな存在だったのか見ていこうと思います。

[文責：子ども学部教員 加藤理]



↑ 第1回展示資料
『小學國語読本 卷三(尋常科用)』(文部省)より



— 第2回展示資料
『実録繪本 義経一代記』
表紙

第3回展示資料 一
『講談社の繪本 牛若丸』
表紙



【今回の展示は、子ども学部 加藤理助教授ご所蔵の資料をお借りしました。】

おすすめの1冊

『河合隼雄著作集』全14巻

河合隼雄著 岩波書店

(1階書架 140.8/Kaw/1~14)

私は河合隼雄先生の長年のファンである。シェイクスピアやスペンサーなど、イギリス・ルネッサンス期の作家を読んでいると、物語や伝記、伝説、お伽噺の類が大きな役割を果たして、研究の大半はそれらを読み解くことに費やされる。個人主義が芽生え進展しつつあった時代だが、独創の前に豊かな伝承の世界があり、作家はそこで思う存分個性を発揮して遊んでいる。

さて日本社会では、長い間西欧並みの個人主義が叫ばれながら、ようやくこのごろになって本格的なその波が押し寄せ

てきた観がある。若い人たちも、早く自分を知り、自分に何ができるか考えよ、とせかされてストレスをためているのではないだろうか。そこで河合先生の解説をたよりに、日本人の心を語る物語やお伽噺の世界を知り、改めて自分を考えてみてはどうかと思う。

先生は京都大学臨床心理学教授、国際日本文化センター所長を経て現在は文化庁長官と多忙な中、膨大な著作を発表してこられた。その一部が『河合隼雄著作集』全14巻となって本図書館にも所蔵されている。このうち物語に関するものは主に第5巻、8巻、12巻に収められているが、「吉本興業顔負けの漫談家」とも評される著者だから、この方面に惹かれる方は、第12巻冒頭の京大退官記念講義あたりから入るとよいかも知れない。

(図書館長・英文学 橋本禮子)

図書館からのお知らせ

図書館で利用できるデータベースのご紹介

図書館では今年度から5つのデータベースと契約して、指定した検索パソコンで自由に利用できるようになりました！レポートを書く際にも、大変役立つツールです。ぜひ活用してください。利用方法など、わからないことがあれば気軽にレファレンスコーナーに来てください。

検索パソコン 1

『聞蔵』

朝日新聞記事データベース。
1984年8月以降の400万件にのぼる
記事を高速検索可能。

『ヨミダス文書館』

読売新聞記事データベース。
1986年9月以降の新聞記事と「よみうり人物データベース」の検索が利用できる。

検索パソコン 2

『MAGAZINEPLUS』

国内最大級の雑誌記事データベース。

検索パソコン 3

『WHOII』

研究者・著述・ジャーナリズムの国内最大級の人物データベース。

検索パソコン 5

『ネットで百科』

「世界大百科事典」(平凡社)などの最新情報をオンライン検索できる。



アンデルセン生誕200年 特設コーナーのご紹介



2005年は、世界で最も知られたデンマーク人、アンデルセンの生誕200年目にあたります。図書館では、アンデルセンの著書『みにくいアヒルの子』『雪の女王』『人魚姫』などを集めたコーナーを設置しています。場所は、図書館1階カウンター脇の特設コーナーです。

(肖像：財団法人HCA2005のホームページより)

新着図書紹介

『桜が創った「日本」-ソメイヨシノ起源への旅』

(岩波新書新赤版936) 佐藤俊樹著／岩波書店

一面を同じ色で彩っては、一斉に散っていくソメイヨシノ。近代の幕開けとともに日本の春を塗り替えていったこの人工的な桜は、人々にどんな語りを与えてきたのだろうか。現実の桜と語られた桜の間から浮かび上がってくる「日本」の姿に迫る。

『非暴力不服従運動の誕生』 (東洋文庫736)

M. K. ガンディー著／平凡社

南アフリカのインド人社会のために誕生し、展開された非暴力不服従運動サット્યાグラハ。やがてインド独立へと向かう運動精神と実際をガンディー自ら詳細かつ平易に語る。ガンディー思想を知る最良の書。

『minimal』 谷川俊太郎著／思潮社

深く、そして限りなく優しいのびやかなことばのリズム。「世間知らズ」以降十年ぶりの詩集。詩文の英訳も併記。

『夜のピクニック』 恩田陸著／新潮社

ノスタルジーの魔術師が贈る永遠普遍の青春小説。第26回吉川英治文学新人賞受賞作。

『旅をする裸の眼』 多和田葉子著／講談社

少女の数奇な運命と映画の内容を重ね合わせた長編小説。



図書館では利用者の皆さんからの資料のリクエストを受付けています。詳しくは、図書館1階レファレンスコーナーまで…